

## ■ 概況

10/26～11/1のNYMEX・WTI先物市場は80.44～85.54ドルの範囲で推移した。

11月2日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)に続き、英国イングランド銀行が金利据え置きを発表したことで、利上げ終了が近いとの観測から、景気後退懸念が緩和され、4営業日ぶりに反発した。パレスチナにおけるイスラエルとハマスの戦闘激化も値上がり要因。12月物終値は前日比2.02ドル高の82.46ドル。

週末3日は、中東における地政学リスクへの過度な警戒感の緩和に加え、米国の雇用統計の悪化観測、中国の製造業景況指数(PMI)の軟化により、反落した。12月物終値は同1.95ドル安の80.51ドル。

週明け6日は、サウジ当局は5日実施中の100万b/dの自主追加減産を12月中も継続することを発表、ロシアも石油輸出の30%削減を継続すると発表したことから、需給の引き締め意識され、反発した。安値に伴う買いも見られた。12月物終値は同0.31ドル高の80.82ドル。

7日は、中国の10月の貿易収支が以上予想を上回る鈍化を示すとともに、米国でもエネルギー情報局(EIA)の短期見通しで2023年の石油需要見通しの予想外の下方修正を行うなど、先行き需要に懸念が広がりが大きく反落、7月下旬以来3か月半ぶりの安値を記録し、節目の80ドルを割った。12月物終値は、同3.45ドル安の77.37ドル。

8日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫統計の発表は延期されたものの、米国石油協会(API)の原油在庫統計が市場予想に反し大幅に積み増しとなったことから、昨日に続き需要の減速感が広がり、続落した。12月物終値は前日比

2.04ドル安の75.33ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は、10月26日～11月1日の間、86.10～90.60ドルの範囲で推移。11月2日86.30ドル、6日87.10ドル、7日86.20ドル、8日83.80ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、10月26日～11月1日の間、149.51～151.47円の範囲で推移。11月2日150.62円、6日149.67円、7日150.10円、8日150.67円。

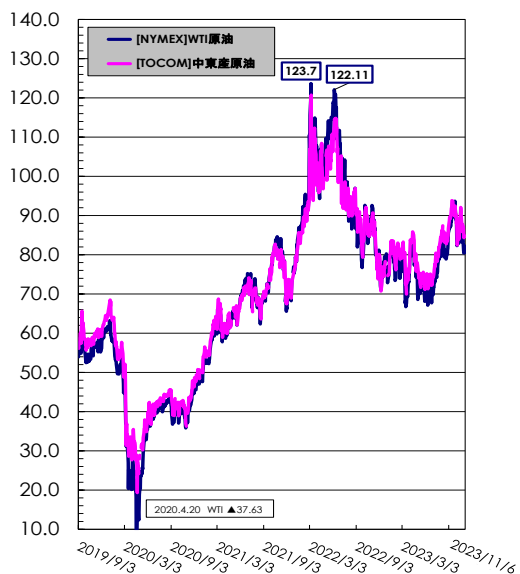
財務省が11月8日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は87,870円で前旬比3,682円高、ドル建て93.65ドルで前旬比3.36ドル高、為替レートは1ドル/149.17円。

そのような中で、11月6日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同4円の値下がり(18リットルベース)。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油は9週ぶりの値上がり、灯油は9週連続の値下がり、ガソリンの全国平均価格は173.4円となった。

11月9日～15日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は29.7円(補助金がない場合の次週予想価格204.5円、従来の基準価格168円から高補助率適用価格185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で計19.5円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/29～11/4	2,784 ▲27	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.4 ▲0.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/4	10,891 ▲128	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/6	84.75 ▼-2.49	▼-6.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/6	80.82 ▼-1.49	▼-11.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	93.65 ▲3.36	▼-12.38
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,870 ▲3,682	▼-8,880
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.17 ▼-0.95	▼-4.10
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/6	150.67 ▲0.19	▼-2.63

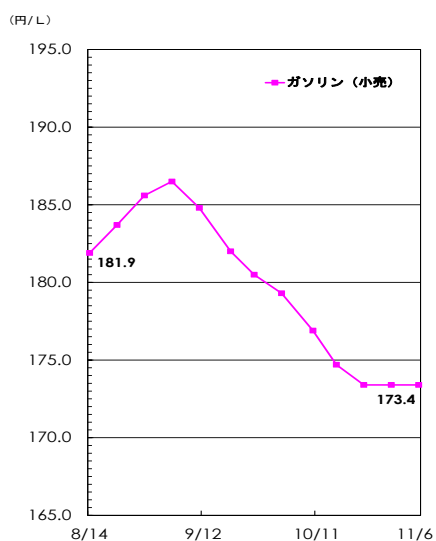
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/29 ~ 11/4	859 ▲ 47	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	809 ▲ 147	▲ -	
	輸出	"	97 ▼ -16	▼ -	
	在庫	11/4	1,690 ▼ -46	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/31 ~ 11/6	75.2 ▲ 0.5	▲ 2.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	77.0 ▲ 1.6	▲ 1.1
		(TOCOM/中部)	11/6	75.0 ➡ 0.0	▲ 2.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	173.4 ➡ 0.0	▲ 5.3	

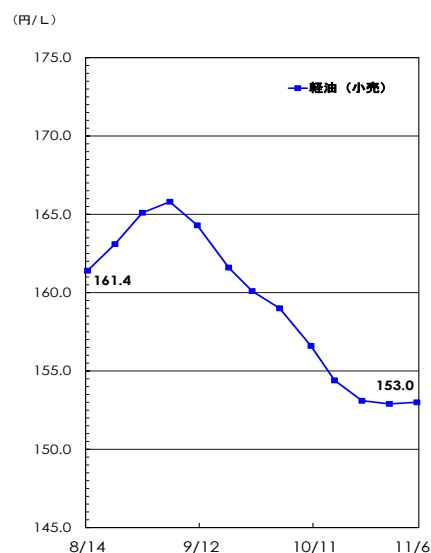
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

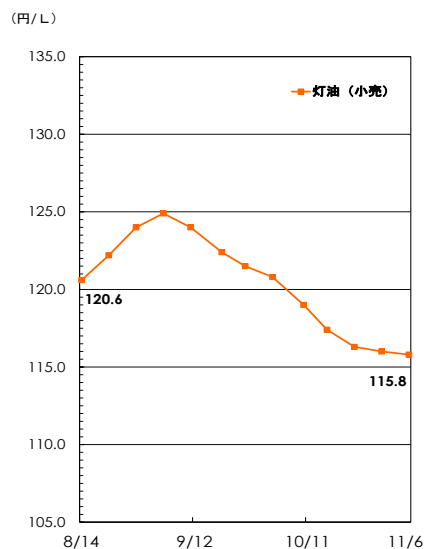
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/29 ~ 11/4	753 ▲ 100	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	545 ▼ -18	▼ -	
	輸出	"	158 ▲ 38	▲ -	
	在庫	11/4	1,282 ▲ 50	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/31 ~ 11/6	76.1 ▲ 0.9	▲ 1.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	77.2 ▲ 1.3	▼ -0.1
		(TOCOM/中部)	11/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	153.0 ▲ 0.1	▲ 4.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/29 ~ 11/4	184 ▼ -44	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	55 ▼ -17	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -46	▼ -	
	在庫	11/4	3,213 ▲ 129	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/31 ~ 11/6	76.6 ▲ 0.8	▲ 0.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	76.0 ▲ 2.6	▼ -5.5
		(TOCOM/中部)	11/6	77.0 ➡ 0.0	▼ -1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	115.8 ▼ -0.2	▲ 4.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(11月2日～8日)のWTI石油先物市場は、イスラエルとイスラム勢力ハマスの軍事衝突が激化する中、欧米の利上げ終了観測から、4営業日ぶりの反発の82.46ドルで始まったが、その後は、週末3日には反落、週明け6日には反発、7日には反落、80ドルを割り、8日は続落、75.33ドルで終わるとい、荒い値動きであった。上昇要因として、パレスチナ情勢の激化、サウジ・ロシアの減産継続等があったが、下落要因としての世界景気や石油需要の先行き停滞の警戒感が強かった。

11月8日発表予定の3日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、システム障害により、

15日に延期。

EIAによると、11月6日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.7セント安の1ガロン3.396ドル(135.0円/ℓ)と7週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比8.8セント高と2週連続の値下がりの1ガロン4.366ドル(173.6円/ℓ)。

ベーカー・ヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、11月3日時点で、前週比8基減の496基と4週ぶりの減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年10月29日～11月4日に休止したトッパー能力は26.0万バレル/日で、前週に対して4.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は278.4万klと、前週に比べ2.7万kl増加。前年に対しては11.7万klの減少。トッパー稼働率は77.4%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては0.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.8%増、ジェット/0.1%減、灯油/19.3%減、軽油/15.3%増、A重油/2.6%増、C重油/14.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比4.8万kl減)。軽油の輸出は15.8万kl(前週比3.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は80.9万kl(対前週22.1%増)と2週振りに増加した。ジェット7.6万kl(対前週119.2%増)、灯油5.5万kl(対前週22.9%減)、軽油

54.5万kl(対前週3.2%減)、A重油18.0万kl(対前週4.9%減)、C重油15.8万kl(対前週28.5%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/29 ~ 11/4)	前週 (10/22 ~ 10/28)	前週比	
ガソリン	809	662	▲ 147	(22%)
ジェット燃料	76	35	▲ 41	(117%)
灯油	55	72	▼ -17	(-24%)
軽油	545	563	▼ -18	(-3%)
A重油	180	189	▼ -9	(-5%)
C重油	158	221	▼ -63	(-29%)
合計	1,823	1,742	▲ 81	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月4日時点の在庫はガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは169.0万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては10.1万kl多い。

灯油は321.3万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては74.1万kl多い。

軽油は128.2万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては5.3万kl少ない。

A重油は79.8万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては3.3万kl多い。

C重油は196.7万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては12.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (11/4)	前週 (10/28)	前週比	
ガソリン	1,690	1,736	▼ -46	(-3%)
ジェット燃料	768	845	▼ -77	(-9%)
灯油	3,213	3,084	▲ 129	(4%)
軽油	1,282	1,232	▲ 50	(4%)
A重油	798	781	▲ 17	(2%)
C重油	1,967	1,961	▲ 6	(0%)
合計	9,718	9,639	▲ 79	(0.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月31日～11月6日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートはわずかに円安だったが、元売会社の卸価格建値は2.5円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額33.3円を加え、今週の補助金29.7円を差し引いた、11/9～11/15の実質卸価格は1.1円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月31日～11月6日の製品スポット市況は、10月24日～30日平均と比べ、全ての油種・取引で値上がりした。

直近週(10/31～11/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/24～10/30)比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油も0.8円の値上がり、軽油も0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/31～11/6)に、前週(10/24～10/30)比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油も1.0円の値上がり、軽油も1.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油も2.6円の値上がり、軽油も1.3円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (10/31 ~ 11/6)	前週 (10/24 ~ 10/30)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	75.2	74.7	▲ 0.5
	灯油	76.6	75.8	▲ 0.8
	軽油	76.1	75.2	▲ 0.9

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (10/31 ~ 11/6)	前週 (10/24 ~ 10/30)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	77.0	75.4	▲ 1.6
	灯油	76.0	73.4	▲ 2.6
	軽油	77.2	75.9	▲ 1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/31～11/6実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▲ 1.6	▲ 1.0
灯油	▲ 0.8	▲ 2.6	▲ 1.7
軽油	▲ 0.9	▲ 1.3	▲ 1.1
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの173.4円、軽油は0.1円高の153.0円、灯油も18 $\frac{1}{2}$ ベースで4円安の2,084円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは0.2円安の115.8円)。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油は9週ぶりの値上がり、灯油は9週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが23県、横ばいは高知・石川・秋田・岩手の4県、値下がりが20都道府県だった。全国最安値は新潟県の166.4円、その次は宮城県の166.5円であった。他方、最高値は長崎県の183.6円。最も値下がりしたのは奈良県(同1.7円安)、最も値上がりしたのは島根県と和歌山県(同1.6円高)だった。

次回調査時(11/13)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/6)	前週 (10/30)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	173.4	173.4	➡ 0.0	23/9/4 186.5
	灯油	115.8	116.0	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	153.0	152.9	▲ 0.1	08/8/4 167.4

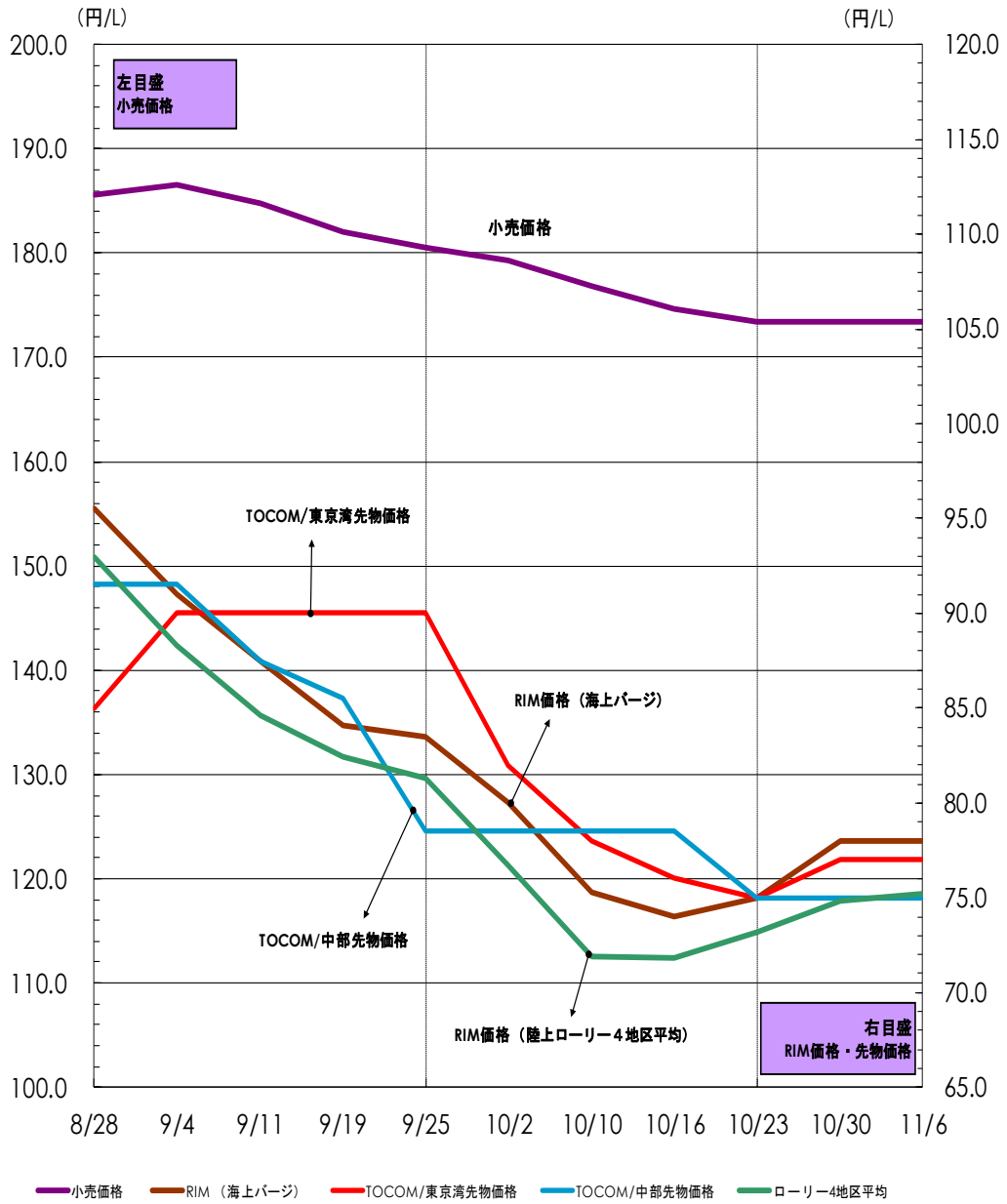
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/8/28 ~ 2023/11/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2023第31号) の公表は、11/17 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。